

未来につな繋ぐみのかもの70年

第17回

国際交流のはじまり

問 みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム 28-11110

1970年代、高度経済成長の波のり、わが国では急速に国際化が進んでいきました。海外との人・物・文化・情報などの流れが急激に増加し、平成の時代に入ってから、特に地域社会の中において外国の存在が意識されるようになります。

美濃加茂市では国際化の潮流に対応するため、まず行政が先導役となり、平成元年6月にオーストラリアのダボ市と姉妹都市の提携を結びました。国際語ともいえる英語圏であることや、現地視察の際に明らかになった対日感情や治安の良さなどから選ばれたようです。この年は美濃加茂市の「国際交流元年」となりました。

これを機に市民主体の活動の気運が高まり、2年後となる平成3年には、美濃加茂国際交流協会が発足します。以後、両市の中高中生による海外派遣などの交流が深められつつ、国際交流講座の開催や産業祭におけるダボ市の

紹介など、市民の中でも外国への理解が浸透していきました。平成14年には、日本文化を紹介するために、ダボ市に日本庭園「逍遙園」と茶室「寿里庵」が完成し、現地で記念式典が挙行されています。

『広報みのかも』の姉妹都市提携10周年記念号(平成10年12月1日号)では、これまでの「外への国際交流」に対して、今後は「内なる国際交流」に注目しなくてはならないとしています。外国人を「新しい市民」として迎え入れるた

め、言葉や風俗、宗教、習慣などの違いを乗り越え、互いに尊重し合えるような視野の広い人づくりを呼びかけているのです。市の外国人登録者数が1割を超えた平成19年には「外国人集住都市会議」が美濃加茂市文化会館で開催され、「みのかもメッセージ」が宣言されました。「多文化共生」は現在も市のまちづくりの根幹として据えられ、さまざまな取り組みが行われています。



▲ダボ市の「逍遙園」(平成14年)

外国人集住都市会議参加都市

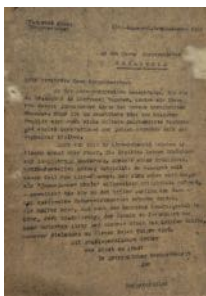
群馬県 太田市・大泉町
 長野県 上田市・飯田市
 静岡県 浜松市・富士市・磐田市・袋井市・湖西市
 愛知県 豊橋市・岡崎市・豊田市・西尾市・小牧市
 三重県 津市・四日市市・鈴鹿市・伊賀市
 滋賀県 湖南市・長浜市
 岐阜県 大垣市・可児市・美濃加茂市
 全会員市町 7県 23自治体
 ※そのほかにオブザーバーとして、静岡県菊川市・愛知県知立市が加入しています

▲「外国人集住都市会議参加都市」(『広報みのかも』平成20年1月1日号)

Pick Up

「日本ラインが結ぶ日独友好」

木曾川中流域の別名「日本ライン」。その由来である西ドイツ・ライン河畔のオーバーベール市と美濃加茂市は、当初より友好な関係を築いていました。昭和35年に市長の信書と菊花石を同市に授与したことに始まり、渡辺栄一わたなべえいいち市長が渡欧した折に現地訪問。昭和39年の飛騨・木曾川国定公園指定の記念祝賀会では、西ドイツ日本総領事が来賓としてライン下りを楽しんだといっています。市の国際交流への意識の芽生えは、この頃からすでにあっただようです。



▲美濃加茂市長・渡辺栄一よりオーバーベール前市長・ヨーステン国会議員に宛てた手紙(昭和39年8月4日)